

令和 8 年 4 月 30 日

関東運輸局

令和 7 年度のバス、タクシー、トラックの事故防止への取組について

～「車内事故・出会い頭事故の防止・啓発資料」及び「飲酒運転防止の取組み事例」を紹介～

関東運輸局では、「事業用自動車総合安全プラン 2025」の課題に対応するため、「乗合バスの車内事故」、「タクシーの出会い頭衝突事故」、「トラックの飲酒運転事故」について、関東地区バス保安対策協議会、関東地区ハイヤー・タクシー協議会、関東トラック協会と連携し、事故防止に取り組みました。自動車運送事業に関係する皆様は、事故防止にお役立てください。

関東運輸局では、令和 8 年度より開始した「事業用自動車総合安全プラン 2030」に基づく事故削減目標の達成に向けて、自動車運送事業者団体等と連携して、自動車運送事業者による取組を推進して参ります。

<業態ごとの取組の概要>

- バスについては、乗合バスの「車内事故」について、添乗調査を実施し、その結果をバス事業者が運転者教育に活用するとともに、乗客、自転車利用者及び歩行者向けに、車内事故防止に関する正しい知識をご理解いただくことを目的としたチラシを作成しました。（別紙 1）
- タクシーについては、「出会い頭衝突事故」について、タクシー事業者が運転者教育に活用いただくことを目的として、ヒヤリハットや事故事例、見通しの悪い交差点における多段階停止をテーマとした教育資料を作成しました。（別紙 2）
- トラックについては、「飲酒運転事故」について、飲酒運転防止のため運送事業者が取り組む好事例や支援策について調査し、調査結果をトラック事業者が飲酒運転防止への取組みに活用いただくことを目的として「飲酒運転防止に向けた調査報告書」を作成しました。（別紙 3）

関東運輸局ホームページに掲載しています。

https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/jidou_gian/hoan/index.html

【問い合わせ先】

関東運輸局自動車技術安全部保安・環境課 土岐、澤田、鈴木、石橋

電話 045-211-7256（直通） FAX 045-201-8813

【配布先】

神奈川県政記者クラブ、横浜海事記者クラブ、都庁記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、群馬県政記者クラブ、千葉県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、物流専門紙、ハイタク専門紙

1. 乗合バス車内事故防止のための啓発活動等

乗合バスは、短い間隔で加速・減速を繰り返しており、また、乗客が車内を移動したり、立ったまま乗車できる構造であることから、特に「停車状態からの発進時や減速、急ブレーキなどの制動時の揺動」と「乗客がつり革や手すりをつかんでいない不安定な状態」が重なって、乗客がバランスを崩し転倒などとして負傷する車内事故が多数発生しています。

関東運輸局では、停車状態からの発進時や減速、急ブレーキなどの制動時の車内事故を防止するため、関東地区バス保安対策協議会と連携して、車内事故が多い乗合バス事業者などを対象に、**発車前の着席等の確認やマイク案内などの車内の安全運行に関する事項について添乗調査を実施**しました。調査の結果、**着座確認後の発進など改善が必要な事項について対象事業者にフィードバック**し、事業者においてより一層の運転者教育に活用いただいております。

【主な添乗調査項目】

調査項目	内容
マイク案内	乗車時、走行中、降車時の案内方法等
着席確認	着席前発進、つり革確認等
前扉、後扉の開閉	見切り操作、乗客の確認方法等
走行速度	制限速度超過等
右左折時の確認	歩行者妨害の有無等
交差点の進入・通過	進入速度、無理な黄色信号進入等
車間距離	社内規定の励行状況等
挙手	社内規定で禁止の場合
運転姿勢等	片手運転等

【乗客バス車内事故発生類型】

件(割合：各種別の発生件数/合計発生件数)

発生種別	令和5年	令和6年	令和7年 【速報値】	運転操作に 起因する 事故割合	各種別の発生件 数に対する運転 操作に起因する 事故の割合
発進時： 停車状態からの発進時	19 (31.1%)	25 (43.1%)	25 (39.7%)	19	76.0%
【内：着座前発車】	—	[1 (18.9%)]	[16 (25.4%)]	[16]	[100%]
走行中： カーブ・車線変更、踏切等	3 (4.9%)	3 (5.2%)	2 (3.2%)	0	0%
制動時： 減速、急ブレーキ等	32 (52.5%)	20 (34.5%)	30 (47.6%)	9	30.0%
変速時： 変速操作時の揺動等	1 (1.7%)	1 (1.7%)	0 (0%)	0	0%
扉開閉時： 扉の開閉操作時等	6 (9.8%)	8 (13.8%)	6 (9.5%)	6	100%
その他	0 (0%)	1 (1.7%)	0 (0%)	0	0%
合計	61	58	63	34	54.0%

※事故の概要等は詳細にご覧いただくには、以下の参考資料をご覧ください。
 ・資料1-2 2024年 車内事故(乗合) ・資料1-3 2025年 車内事故(乗合)【速報値】

また、乗合バスの車内事故を削減するためには、事業者の努力だけでは限界があり、乗客や自転車の方々のご協力が必要不可欠であることから、**乗客や自転車の方々に乗合バスの車内事故防止の取組みを知っていただくための乗客向け、自転車の運転者向けの車内事故防止および歩行者のバスの直前横断による事故防止のチラシを作成**しましたので、シルバーパス更新時の配布、同封や交通安全運動での配布等により車内事故防止の啓発活動で活用してまいります。

なお、このチラシは、関東運輸局のホームページに掲載しておりますので、是非ご覧いただき、乗合バスの車内事故防止へのご理解とご協力をお願いします。

【車内事故防止（乗客向け）】



【車内事故防止（自転車向け）】



【歩行者直前横断】



2. タクシー事業者による事故防止のための取組事例

タクシーの人身事故発生状況は、コロナ禍で一時的に減少したものの、近年では増加傾向を示しております。中でも「出会い頭衝突事故」は、タクシーの特徴的な事故となっております。

関東運輸局では、「出会い頭衝突事故」に向けて更なる取組を進めるため、タクシー事業者団体と合同で設置したタクシー事故防止対策検討会において、ヒヤリハットや事故事例等より危険とされている交差点等の情報収集を行い、どのような交通状況下で発生しているのか、効果的な事故防止対策を取りまとめ、タクシー事業者による「出会い頭衝突事故削減等に向けた取組事例」を作成しました。

また、歩行者・自転車との出会い頭衝突事故の啓発として、タクシー運転者に直接メッセージが届くよう、主に営業所内への掲示等を目的に、「見通しの悪い交差点における多段階停止」をテーマとしてチラシを作成しました。

検討会で取りまとめた資料及びチラシは、関東運輸局のホームページに掲載しておりますので、タクシー運転者の教育用資料としてご活用いただき、出会い頭衝突事故を含めたタクシーの人身事故防止にお役立てください。

【出会い頭衝突事故削減等に向けた取組事例】

○生活道路での事故防止等の取組み

1. 生活道路での事故防止等の取組み【東谷タクシー株式会社（埼玉県）】 国土交通省

背景及び目的	取組内容
<p>ゾーン30区域内の道路は生活道路でもあり、歩行者や自転車が多く通行する道路でもあり、十分に注意を払う必要があると考えます。</p> <p>多くの乗客は、朝晩時間帯30キロメートルの道路について把握しているが、営業区域のあるゾーン30区域については十分に把握していないことから、安全運行に対する心構え・意識向上を図ることにより事故防止につなげる。</p>	<p>ゾーン30区域の可視化により、走行注意区域の認知が行われ、走行態勢による事故防止の対応の改善が期待されています。</p>
取組内容	取組内容
<p>乗客・乗務員がゾーン30内にあるお客車については、細心の注意を払いゾーン30の速度制限（10km/h表示）をあらかじめ記入しておき、配車時に注意喚起を促し、事故の発生を事例に防止する。</p> <p>ゾーン30区域の道路を一時的に可視化し、ゾーン30区域であることを認識させる。</p> <p>ゾーン30区域が、30キロメートル制限の道路（緑）ではなく、赤（黄）であることを理解させ、走行中ゾーン30区域内を走行中であるとの認識を養い、減速を促し安全走行につなげる。</p> <p>※生活道路を生活道路の認知が促され、乗客・乗務員への危険性を、改めて理解し意識させる指導をすすめる。</p> <p>※視界の悪い交差点等については、区域内を走行する乗客・乗務員への注意が必要となることを理解し、安全意識向上につなげる。</p>	<p>ゾーン30区域の可視化により、走行注意区域の認知が行われ、走行態勢による事故防止の対応の改善が期待されています。</p>

【多段階停止啓発用チラシ】

交差点では、より安全な一時停止「多段階停止」

1 止まった?
2 見えてる?
3 確かめた!

関東地区タクシー事故防止対策検討会

○ドライブレコーダの映像を活用した事故防止等の取組み

2. ドライブレコーダの映像を活用した事故防止等の取組み【国土交通省（北斗タクシー株式会社（神奈川県））】

背景及び目的	取組内容
<p>出会い頭による事故や路上横断車事故を防止するために、指導時にドライブレコーダを参照し、乗客自身が自分自身で確認できるように乗客が運転している乗客に対して、自分の運転行動を確認させることで、歩行者や自転車による交差点内での事故削減の取組を実施。</p>	<p>※乗客自身が自分の運転行動を確認し、安全意識を高めることで、歩行者や自転車による交差点内での事故削減の取組を実施。</p>
取組内容	取組内容
<p>※乗客自身が自分の運転行動を確認し、安全意識を高めることで、歩行者や自転車による交差点内での事故削減の取組を実施。</p>	<p>※乗客自身が自分の運転行動を確認し、安全意識を高めることで、歩行者や自転車による交差点内での事故削減の取組を実施。</p>

○歩行者・自転車との事故削減の取組み

3. 歩行者・自転車との事故削減の取組み【東栄興業株式会社（神奈川県）】 国土交通省

背景及び目的	取組内容
<p>デジタル転写とアナログ転写の融合に取り組み、A1ドライブレコーダーをもとに定量化されたデータを用いたデジタル転写と、安全運行に対する心構え・意識向上を図るための掲示物・映像等を用いたアナログの掲示を組み合わせた乗客啓発を実施することで、歩行者・自転車との事故削減の取組を実施。</p>	<p>※乗客自身が自分の運転行動を確認し、安全意識を高めることで、歩行者や自転車による交差点内での事故削減の取組を実施。</p>
取組内容	取組内容
<p>A1ドライブレコーダーを参照し、一時停止違反、減速不足、歩行者・自転車との出会い頭衝突等の事例に基づき、乗客自身が自分の運転行動を確認し、安全意識を高めることで、歩行者や自転車による交差点内での事故削減の取組を実施。</p>	<p>※乗客自身が自分の運転行動を確認し、安全意識を高めることで、歩行者や自転車による交差点内での事故削減の取組を実施。</p>

3. 飲酒運転防止に向けた調査報告書（関東トラック協会）

「事業用自動車総合安全プラン2025」において、事業用自動車の飲酒運転事故ゼロを目標としている一方、事業用トラックによる飲酒運転事故件数は未だゼロになっておらず、ひとたび飲酒運転事故が起きると甚大な被害をもたらします。

このような状況を踏まえ、関東運輸局では、飲酒運転事故防止を目的として「関東圏における自動車事故防止対策検討会」において、各運送事業者等が行っている飲酒運転事故防止に関する**有効な取り組み事例**や**産業医、アルコール依存症問題などに取り組む団体等での支援事例**を調査し、**運送事業者が参照して飲酒運転事故防止に有用な事例**を収集した「**飲酒運転事故防止に向けた調査報告書**」を作成しました。

この調査報告書は、関東運輸局のホームページに掲載しておりますので、乗務員教育にご活用いただくなど飲酒運転事故防止の取り組みにご活用ください。

トラックドライバーが飲酒運転をしてしまう理由

- トラックという業態は交代要員がない、あるいは少ないという運行上の問題があると考えます。
- ドライバーがお酒と近くなりやすい要因として、時間に追われながらの業務特性や孤独な状況という「メンタル面」、手荷役等、体を使う労働である「フィジカル面」、長距離トラックドライバーは仕事場と生活環境の空間的線引きが難しいという実情の「物理面」がある。
- ドライバーの中には、不規則勤務（シフト）の中で手っ取り早く睡眠をとろうと寝酒（睡眠導入剤として）をしてしまうこともある。

職場でできるアルコール対策のポイント

1. 徹底した飲酒運転防止体制
 - 点呼の強化とアルコールチェッカーの導入、勤務前8時間の飲酒禁止、営業所内、行先地・宿泊地での飲酒規制等、徹底した飲酒運転防止体制の構築
2. 予防知識を広める
 - アルコールの分解時間や多量飲酒が翌日の飲酒運転を招くこと等についての情報の発信。
3. 飲酒問題を見逃さない
 - 運行管理者・人事担当者・健康管理職・雇用者らが連携し、飲酒問題を見逃さないようにする。
4. 本人に介入する
 - 関係者（運行管理者・人事担当者・雇用者・保健師や産業医等の健康管理職、家族）が連携し、情報を共有したうえで意思統一をはかる。
5. 介入に向けて関係者の調整をする